

常任委員会の行政調査

総務委員会

平成28年10月5日から7日までの3日間、奈良県葛城市の人口減少対策についてと静岡県焼津市のふるさと納税について先進地調査を行いました。

【葛城市】

葛城市は、奈良県の西北部に位置し、大阪市内からは電車や自動車で約30から40分、関西国際空港からは60分と交通の利便性が高い地域です。近年、同県内で人口が増加している3市のうちの1市で人口約3万7千人を有します。

市民の生活環境に関しては、コミュニティバスが充実しており、市民から要望の多い病院や買い物などの経路が網羅され、上下水道料金も県下で一番安く、ごみ袋は無料となっています。行政サービスもコンビニエンスストアで証明書が発行でき、市内中心部から離れた地域に暮らす人たちのところに向いて証明書を発行する市民サービスや一部の買い物困難者に対しての買い物サ-

ビスカーが運行しています。

市内には高校、大学、市民病院などがないにもかかわらず人口は増加しており、移住された方の意見として、交通の便がよい、生活するのに安全安心で便利なおところ、生活コストもかからない、などの意見がありました。また、気候が温暖で地震などの災害がなく、都会と比較して土地が安いなど移住者の希望に当てはまるところが多いとのことでした。人口増加の要因として、大阪都市圏との交通の便の良さが大きく影響しているとは思われるものの、行き届いたコミュニティバス事業と行政サービスの内容は、現在松浦市が抱える交通弱者に対する支援策として参考になるものであり、今後研究する必要があると感じました。

【焼津市】

焼津市は、平成27年度のおふるさと納税寄附金額が全国第2位となっています。同市によれば、焼津市の産業や文化について知ってもらおうことが市内の産業振興やシティセールスになるの考えで取り組み、集まった寄附金は産業振興、子育て支援、交流人口の増加、健康寿命の延伸事

業に活用していく計画となっています。

業務の運営は、市の直営で行っており、寄附の返礼品は額に応じて11段階設定されています。1万円以上2万円未満であれば5千円以上の商品を送っており、その割合は約40パーセントと設定されています。寄附額としては1万円から3万円が最も多く、全体の52パーセントが関東からの寄附で、リピーターが多く昨年度寄附の3割ほどが2回目以上の寄附者だそうです。

説明によれば寄附額が急速に伸びた要因として、職員が丁寧かつ迅速な対応をして喜ばれたところだと分析されていました。漁業が盛んな地域ですが鮮魚の取り扱いはなく、ポイント制も導入していません。

ポイント制導入の是非については、平戸市と佐世保市が導入し昨年度全国トップテン入りを果たしたことから、ポイント制導入こそが寄附額の増加に直結するとみられ、本市議会でもこれまで話題になりました。しかし全国2位の焼津市でも導入していないことから、取り組み次第では十分に寄附額は伸ばせるのではないかと感じました。

文教厚生委員会

平成28年10月19日から21日までの

3日間、奈良県宇陀市の廃校跡地活用についてと京都府綾部市の小中一貫教育について先進地調査を行いました。

【宇陀市】

宇陀市には、学校の統廃合により廃校となった昭和10年築の旧宇太小学校木造校舎を、NPO法人宇陀力エデの郷づくりが市から平成24年に譲り受け、3千本の力エデに彩られた公園や家庭科室力フェなどの施設「奈良力エデの郷ひらら」を25年にオープンしています。

この校舎は、廃校後には取り壊す計画でしたが、地元住民の活動によりそのまま残して活用する方向へ転換した経緯がありました。80年間の卒業生の想いを背景に、今では年間の来園者も2万人を超え、地域の活性化と活力の源になっているとのことでした。同施設を訪問して、まず印象に残ったのは築80年を過ぎた木造校舎でした。昭和初期に建設されたこの校舎には、懐かしさが溢れ、豊かな自然の中で癒しの空間として利用されています。歴史あるものを目を向け活用することも重要であると感じました。

宇陀市は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に地域資源を活かし育てるまちづくりを掲げ、そのひとつに力エデ植樹推進事業として「奈良力エデの郷ひらら」をバツ